

等々力緑地マスタープラン コンセプト

Todoroki Growing Link

-自然、地域、人がつながり、成長し続ける等々力緑地-

100年後に豊かな水・緑をレガシーとして残す、
自然と共生する公園へ

「ふるさとの森」、「21世紀の森」、「四季園」、「釣池」の周辺など、まとまった緑や水辺空間を保全するとともに、地域の植生、生物多様性に配慮した良好な緑地環境、四季折々の風景を創出します。

まちに開かれた誰もが心地よく過ごせる、
地域とつながる公園へ

敷地内のパブリックスペースをつなぐメイン動線となる骨格「アクティビティループ」は公園内の広場や施設をつなぐ本緑地の回遊性を高める新たなシンボルとなります。ループ沿いに様々なシーンやアクティビティが連続的に立ち現れることで、公園の多様な魅力がつながり、利用者の利便性・選択性を向上させる機能を果たします。

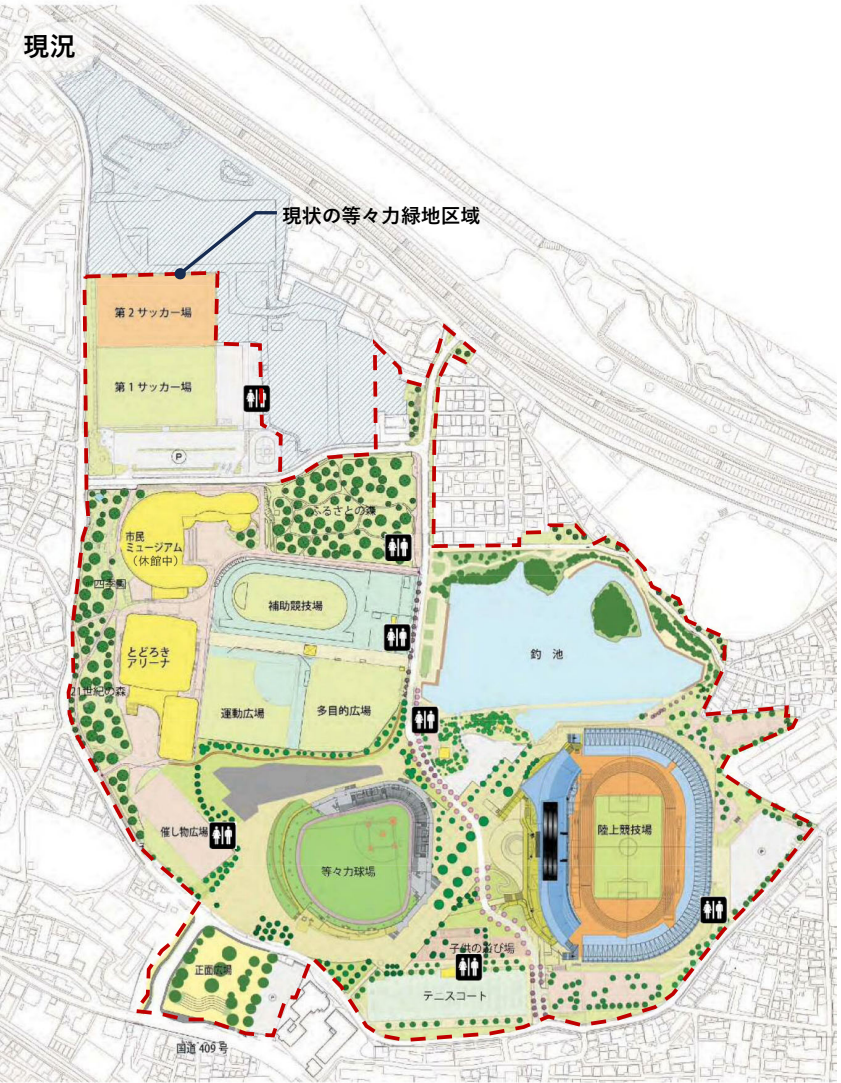
等々力の歴史・文化・自然資源を生かした、
多様性のある公園へ

憩い、運動、スポーツ、学び、交流、自己表現、市民活動、働くといった多様なニーズに応えるため彩り豊かな活動の場を仕組みと合わせてデザインし、持続可能な公園づくりを推進します。



※パースは検討イメージであり、大きさ、色や素材などは今後の調整により変更される可能性があります。

現況と計画の比較



動線・ゾーニング計画

分断された公園からまちとつながる公園へ

《現況課題》

中央の南北道路により施設や広場の動線がわかりにくく、公園が分断されています。全体の景観としての統一感がないため、本緑地の特徴が乏しくなっています。

《設計方針》

まちとつながる出入口を明確化して整備し、骨格動線「アクティビティループ」とつながります。公園の一体感、回遊性を向上させるとともに、各施設やパブリックスペースを特徴づけし、連携させる仕掛けをつくります。

移動の体験を楽しむ4つのウォーク

4つのウォーク：

ループ沿いの両側に展開するオープンスペースや各施設の特性に合わせた異なる風景・アクティビティを楽しむことができる4つのウォークを計画します。

フェスティバル・ウォーク：

スタジアムに向かう主要動線として必要幅員を確保し、祝祭的な体験を彩る並木を形成します。

ウォーター・ウォーク：

釣池とレインガーデンを繋ぐ水辺空間を眺める園路を並木により形成します。

フォレスト・ウォーク：

ふるさとの森と陸上競技場を柔らかくつなぐ緑陰豊かな緑のコリドーを並木により形成します。

カルチャー・ウォーク：

商業施設と一体となった滞留区間として、建物と内外一体の関係を作り、彩りある賑わいの風景を演出します。

結節空間となる4つのプラザ

4つのプラザ：

東西南北どこからでも来園者を受け入れられるよう、アクティビティループと周辺からの動線の主要な結節空間として4つのプラザ（舗装広場）を計画しています。

スタジアムプラザ：

スタジアム前のメイン広場として、試合時は様々なイベントが開催される祝祭的な広場として機能します。

フォレストプラザ：

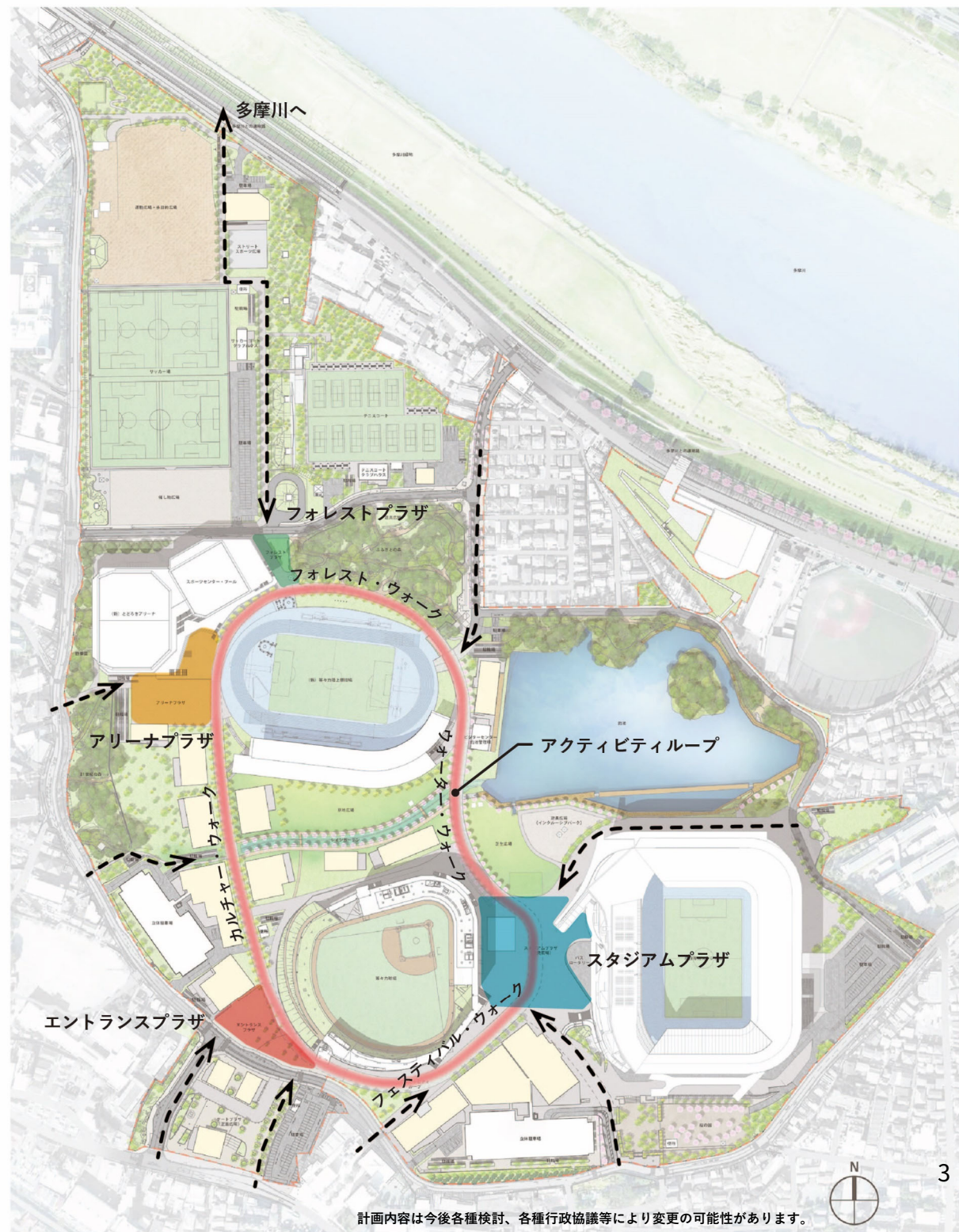
アリーナとふるさとの森をつなぐ広場として整備します。また、多摩川へのアクセス性を高める結節点となります。

アリーナプラザ：

アリーナ前広場として西側のまちからのゲートをつくります。住民参加型イベントなど地域に根差したイベントにも対応します。

エントランスプラザ：

既存のゲートプラザ（正面広場）と連携し、南側のまちからのゲートをつくります。フレキシブルなイベントに対応した広場とします。



計画内容は今後各種検討、各種行政協議等により変更の可能性があります。

動線・ゾーニング計画

多様な居場所を創出しアクティビティを誘発する6つのゾーン

各ゾーンごとに特徴のあるテーマを設け、日常時やイベント時に多様な空間体験を創出し、それぞれのゾーンをアクティビティループがつなぎます。

① アクティブ・スポーツ：

多摩川に面した広大なアウトドアスポーツ空間としてストリート スポーツに対応した施設を計画しています。

② ネイチャー・アクティブ：

既存の池や森を生かした施設を配置し、自然を楽しめるゾーンを計画しています。

③ ライブ・エクスペリエンス：

スタジアムと一体となったイベントや大規模なイベントに対応した広場空間を計画しています。

④ グロウ・フィールド：

レインガーデンや芝生広場に面してなだらかな地形をつくり、施設計画と一体となった空間を計画しています。

⑤ ウィズ・ネイチャー：

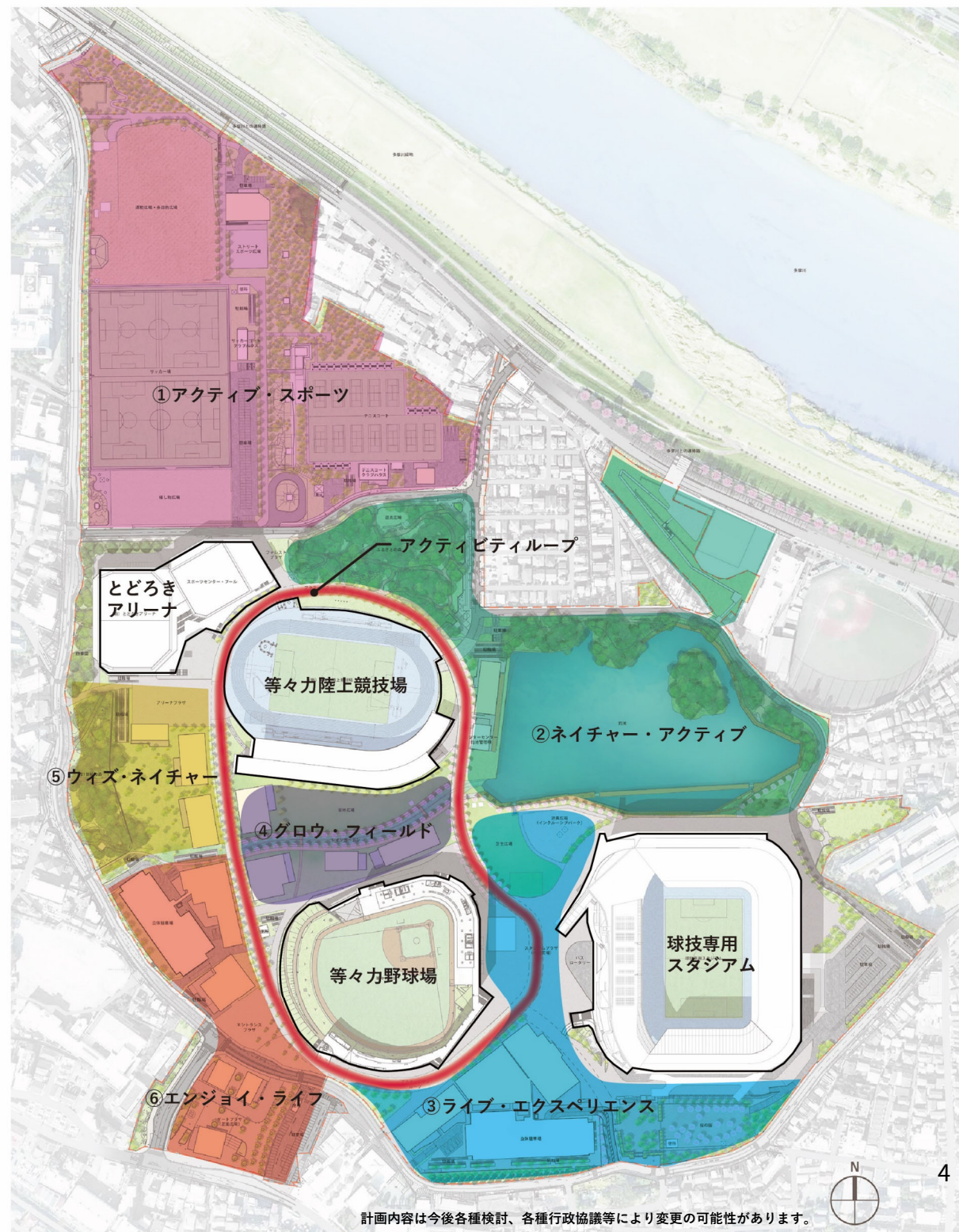
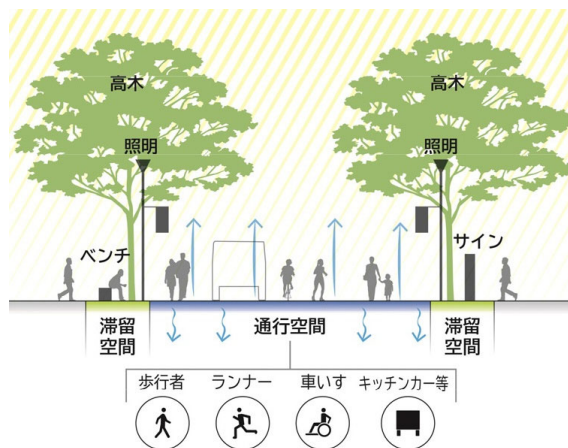
21世紀の森を生かし、自然と共生した緑豊かなゾーンを計画しています。

⑥ エンジョイ・ライフ：

誰もがいつでも自由に憩い楽しむことのできるゾーンとして日常的な居場所をつくり、まちの顔として計画しています。

異なるゾーンをつなぐ全長1.2kmのアクティビティループ

- 高木並木の緑陰と保水性/透水性舗装の雨水蒸散効果と雨水浸透効果により、地表温度の上昇を抑制します。
- 歩行者、ランナー、自転車等、多様な交通手段で利用者が共存でき、かつ平常時・イベント時に対応できる柔軟な利活用ができるよう十分な幅員の平滑な通行空間を整備します。また通行 空間沿いにベンチを整備し、緑陰の下で休める滞留空間をループ沿いに創出します。



各種施設の整備方針

新たに導入する施設

① 球技専用スタジアム：

良好な観戦環境と競技者がベストなパフォーマンスを発揮できる競技環境の提供、観客と競技者の一体感を生み出すスタンド構成により、感動や熱狂を喚起する「魅せる」スタジアムとして計画しています。

② (新)とどろきアリーナ・スポーツセンター・プール：

3つの機能を合築することで、既存緑地や生態系への影響を最小限に抑えつつ、圧迫感を軽減し緑地に馴染む計画としています。(新)とどろきアリーナはスポーツ利用と興行利用を両立できるように計画しています。

③ (新)等々力陸上競技場：

陸上競技やランニング等、本緑地の様々なスポーツアクティビティのメインフィールドとして公園に開かれた計画とすることで、誰もが主体的に運動やウェルネス活動を楽しめる居場所として計画しています。

④ ストリートスポーツ広場：

スケートボードやBMX等のストリートスポーツを楽しめる広場として計画しています。

⑤ レインガーデン：

公園内の雨水や公園外からの溢水を集水する機能を有するとともに、水と親しめる動線として計画しています。

⑥ 草地広場：

(新)等々力陸上競技場やレインガーデンと一体となったオープンスペースとして計画しています。

⑦ インクルーシブパーク：

誰もが一緒に遊べる遊具を整備することで、子どもの想像力の発達、心や体の成長につながる遊び場として計画しています。

⑧ 芝生広場：

公園の中心に位置するオープンスペースであり、一部に人工芝エリアを整備することで、周辺施設と一体的にイベント利用できるオープンスペースとして計画しています。

⑨ 多摩川との連絡橋：

多摩川とのアクセシビリティ向上を目的として、敷地北側の2ヶ所に道路を横断する連絡橋を計画しています。

⑩ 駐車場：

公園利用者用として既存駐車場に加え立体駐車場・屋外駐車場を整備することで約1150台分の駐車場を計画しています。併せて大型バス用駐車場を計画しています。

⑪ 外周園路：

公園中央部の分断解消、柔軟な施設配置を行うため、既存中央園路の道路機能を外周園路に移転します。外周園路は安全・安心な道路空間の整備を計画しています。

既存機能を再整備する施設

⑫(新)運動広場・多目的広場、⑬(新)催し物広場、⑭(新)テニスコート：

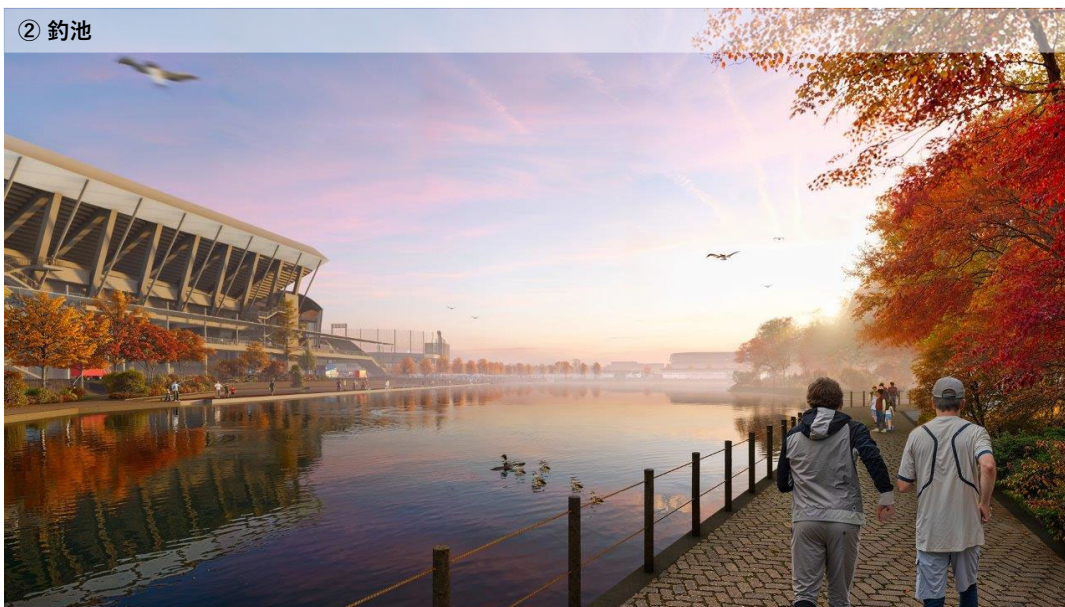
既存施設と同等程度の規模で緑地北側に再整備することで計画しています。

⑮サッカー場：

一般用2面を確保できるサッカー場として一部再整備を計画しています。



イメージパース



※パースは検討イメージであり、大きさ、色や素材などは今後の調整により変更される可能性があります。

イメージパース



④ レインガーデン



⑤ カルチャー・ウォーク



⑥ フェスティバル・ウォーク



※パースは検討イメージであり、大きさ、色や素材などは今後の調整により変更される可能性があります。

イメージパース

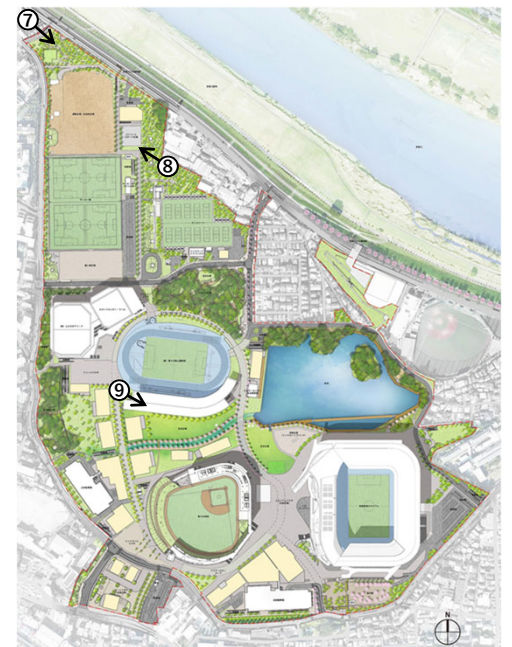
⑦ アクティブ・スポーツゾーン



⑧ ストリートスポーツ広場・運動広場・多目的広場



⑨ 草地広場



※パースは検討イメージであり、大きさ、色や素材などは今後の調整により変更される可能性があります。

イメージパース

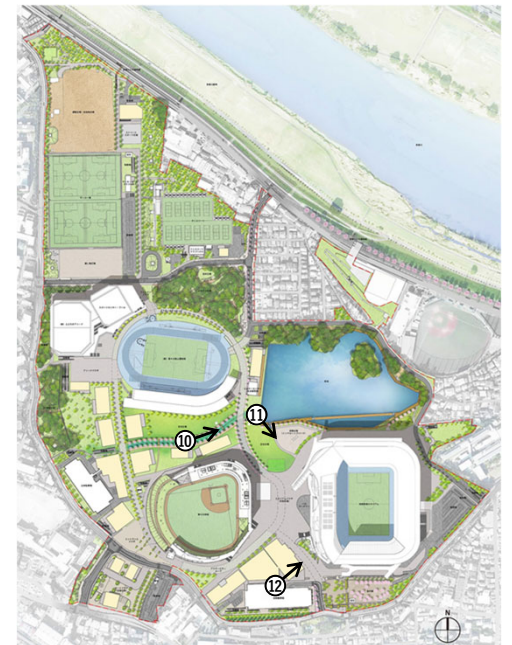
⑩ 芝生広場周辺



⑪ インクルーシブパーク



⑫ 球技専用スタジアム周辺



※パースは検討イメージであり、大きさ、色や素材などは今後の調整により変更される可能性があります。